



IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI

1年生2学期人権・同和教育特別授業

命あることが奇跡

2学期の特別授業は、「あなたが生まれてきたことは、決して平凡な当たり前のことではない!」「奇跡とも呼べるすごいことなんだ!」ということを知ってもらいたくて、コーディネーターの谷本先生が資料を作られました。事前に各クラス担任で検討をし、そこでの意見も反映しつつ、クラスに持ち帰って授業を行いました。



研修から学んだこと・感想・・・

学んだ事柄の要約

あなたは今平然と生きているかもしれませんが、あなたが生まれてきたということは「奇跡的」な事だということを忘れてはいけません。しかし、実際奇跡的だと言われても、多くの方が実感がわかないと思います。簡単に言えば、私たちは母親の体の中で、卵子1つに父親の精子の1つが受精して、約10か月もの歳月を、愛情を受けながら母親の胎内で過ごし、その後めでたく生まれてきます。そして、なぜ奇跡的なのかと言いますと、その確率になります。父親が生涯かけて作る精子の数はおよそ3兆5000億個です。精子を作る期間は決まっており、生まれてから死に至るまでではありません。実際は、11歳から75歳の間、精子を作ることができます。確かに、64年間精子を作るのですから、長い期間かもしれません。そして、1日に換算しますと、1億5000万個の精子を作ります。1日にこれだけの精子を作るのですから、とてもすごいことだと思います。ですが、この精子を作る64年のうちすべての期間子供を作れるわけではありません。父親になる平均年齢が約32歳ですから、18歳から50歳と考えたとして、生涯作れる精子の期間の半分が子供を作れる期間と考えます。そうなりますと、3兆5000万個の半分になり、1億7500万個が子供を作れる期間の精子の数になります。そして、父親が作る数に比べて、母親が生涯かけて作る卵子の数は400個前後とされています。このように比べてしまうと、母親の卵子を作る数が少なく思えてきます。もちろん母親が子供を作れる期間もありますから、生涯のすべての卵子が子供を作れるチャンスという訳ではありません。母親になる平均年齢は約31歳です。16歳から40歳と考えても24年間しかありません。女性も約半分と考えても200個の卵子が子供を作れる期間の数ということになります。この時点の生涯における父親と母親の確立は... 父親が1/10億7500万、母親が1/200になります。ではあなたが生まれてきた奇跡の確立を求めますと... $1/10億7500万 \times 1/200 = 1/1400兆$ になります。1400兆分の1です!このような確率はほとんどの方が初めて耳にするようなとんでもない確率だと思います。

生徒に向けたメッセージ

自分がこの世に生を受けて、今ここに存在する・・・このことは特別なことであり、その特別な自分自身のことをもっと大切に、与えられた命のエネルギーを完全燃焼させて生きて行ってほしい!そして自分の周りにいる人たちのすべても、同様に奇跡的な、大切な存在であることに十分理解しながら互いを大切にして生きて行ってほしいと思います。